

和歌山病院での実習を終えて



竹村 友香

この度は10月16日から2日の間、和歌山病院で臨床実習させていただき、有難うございました。

南方院長には正常なレントゲンの読影方法を教えていただき、これまで曖昧なままにしていた疑問がいくつも解決しました。異常をみるには正常を知らねばならないとよく言いますが、レントゲン撮影の原理から考えることで正常なレントゲン写真とはどういうものなのか、何がどのように表現されるのかがわかってきたような気がしています。これからもレントゲン写真を見る機会がたくさんあると思います。今までのようになんとか白、黒いではなく、はっきりとした意志をもって異常を指摘できるようにトレーニングしていきたいと思います。

また駿田副院長には結核についてのレクチャーをしていただきました。感染方法を深く知ることではほかの感染症との違いや対策の違いを覚えるのではなく考えて身につけることができたと感じています。結核は過去の病だという印象でしたが、毎年何人かは医大の救急へ運ばれてくるということ聞き、患者さん側、医療者側ともにしっかりとした感染対策を学んでおかねばならないと感じました。さらに結核病棟見学をすることもできました。結核病棟とはどのように感染が抑えられているのか、患者さんの入院生活はどのようなものかなど実際の管理方法を見ることで大変理解が深まりました。将来医療者として働くうえで、医療技術以外に大事にしていかなければならないことがあると考えさせられました。

大変充実した実習となりましたのはひとえに貴重なお時間を割いて講義してくださった南方院長、駿田副院長、川邊先生、実習に協力してくださったスタッフの方々、入院患者の皆さまの御かげです。深く御礼申し上げます。今回の経験で得たものを忘れず今後も精進してまいります。